

SOCCER NEWS SHIGA

1996. 1. 30

 第3号 発行
 サッカー協会
 滋賀県サッカー協会
 発行 啓祐
 責任者 福多
 理事 大津 郷 4丁目 4-23

今 考えること ～ 全国大会を観戦して～

滋賀県サッカー協会 会長 土佐 三夫

あらゆるスポーツにおける選手の必須条件が「心・技・体」の三拍子揃ったことであることは、今更言うまでもないことであるが、このことを今年度の国体少年男子1回戦、対福岡県ならびに、全国高校選手権の2回戦、対富山第一高校のゲームを観戦することで痛切に感じた。

この両大会における滋賀県勢の試合運びは、高校生らしく誠に瀟灑とした戦いであったことは申すまでもないが、何か今一つ物足りなさを感じ、満足し得なかったのは何が原因であったのだろうか。共に初戦で先行しながら逆転敗退という結果であったことばかりではないように思える。ゲームの経過全般において特に感じたことは、基礎的技術(技)が充分身につけていないのではないか、自分の体格・体力(体)に合った技術として身につけていないのではないか。また、自己統率力というか判断力(心)がゲームの進行とともに個人個人の冷静な判断力を主とした組織力を生かす攻・守の面から見た場合に物足りなさを感じたのである。

これらの弱点を早期に修正することで近代サッカーへのたちおくれを防がなければならないし、防ぐことこそ県サッカー協会にかせられた命題であると考え。この命題を解決していくための一つの手だてとして考えることは、優れた選手・強力なチームづくりは一時的なショック療法的なものでなく、あらゆる観点から総合的に反省し、現状の見直しを原点にして進めていかなければならない。今、早期に見直しを必要とする一つに「幼・小・中・高・一般」を通しての一貫した普及活動と共に“心”“技”の充実した選手育成のために「小・中・高」の一貫指導体制の確立が先決である。

これの具体化としては、技術委員会とトレセンの組織・運営面の一体化である。むしろトレセンは技術委員会の事業内容として考え、コーチ・トレーナー・指導者の活動実績即ち選手強化策とすることで指導の一貫性と指導体制の確立を図らねばならない。既に実施されている種別もあるが、その組織としては、滋賀県の地域から考えて東西南北の地域トレセンの開設によって、各チームのリーダー育成を図ると共に優秀選手の発掘・育成をはかり地域優秀選手を集めての県トレセンの開設即ち滋賀県選抜チームの調整・強化を考えることが必要である。特に女子チームの普及強化については早急に進めていかなければならない。これらの組織の編成と活動の活性化のためには、指導者・監督・コーチ・トレーナー等関係者の全面的な協力と奮起が必要であることをご理解いただきたいと切に願うものである。

第50回国民体育大会 少年男子

[福島県 郡山市]

 滋賀選抜 2 $\begin{bmatrix} 2-0 \\ 0-4 \end{bmatrix}$ 4 福岡選抜

第74回全国高等学校サッカー選手権大会

[三ツ沢球技場]

 守山北高等学校 1 $\begin{bmatrix} 1-1 \\ 0-1 \end{bmatrix}$ 2 富山第一高等学校

第7回全日本ジュニアユース関西大会

[高槻第四中学校]

 葉山中 0 $\begin{bmatrix} 0-1 \\ 0-1 \end{bmatrix}$ 2 ヴィッセル神戸 (兵庫) 葉山中 0 $\begin{bmatrix} 0-0 \\ 0-1 \end{bmatrix}$ 1 住道中 (大阪)

1種 社会人

(1) 平成7年度滋賀県社会人リーグ

1部リーグ

1位 信楽クラブ	6勝1敗4分	勝点16	7位 FC八幡	4勝5敗2分	勝点10
2位 鈴鹿クラブ	5勝2敗4分	14	8位 東ホムホーイズ	4勝5敗2分	10
3位 NSK石部	6勝3敗2分	14	9位 豊栄クラブ	5勝6敗	10
4位 松下エアコン	5勝4敗2分	12	10位 守山クラブ	4勝5敗2分	10
5位 いしづちSC	4勝4敗3分	11	11位 愛蹴会	3勝5敗3分	9
6位 東レ滋賀	3勝3敗5分	11	12位 礼分会	2勝8敗1分	5

2部リーグ

1位 ルネス学園甲賀	2位 栗東FC	3位 NEC関西
------------	---------	----------

3部Aリーグ

1位 グローバスFC	2位 NSK大津	3位 サッカーボーイ
------------	----------	------------

3部Bリーグ

1位 サンクラブ	2位 LACCO'S	3位 日野クラブ
----------	------------	----------

4部Aリーグ

1位 甲賀クラブ	2位 志賀クラブ	3位 Jamaica
----------	----------	------------

4部Bリーグ

1位 AMEDIOS・C	2位 RAGERS	3位 マスターズ
--------------	-----------	----------

5部Aリーグ

1位 三共FC	2位 村田製作所野洲	3位 MITSUBISHI RITTS
---------	------------	---------------------

5部Bリーグ

1位 小津ロックス	2位 BROWNS	3位 NEKOSOGI FP
-----------	-----------	----------------

5部Cリーグ

1位 STRAY CATS	2位 RITZ	3位 Panasonic ガンパレFC
---------------	---------	---------------------

(2) 第30回府県リーグ決勝大会

Aブロック

大阪 : ホーコク工業	京都 : 三菱自工京都
京都 : 紫光サッカークラブ	大阪 : アイン食品
和歌山 : 海南クラブ	滋賀 : 信楽クラブ
奈良 : 高田FC	兵庫 : 津田SC

Bブロック

信楽クラブ 1	$\begin{bmatrix} 1-3 \\ 0-4 \end{bmatrix}$	7 三菱自工京都	信楽クラブ 2	$\begin{bmatrix} 1-0 \\ 1-1 \end{bmatrix}$	1 津田SC
			信楽クラブ 2	$\begin{bmatrix} 1-4 \\ 1-1 \end{bmatrix}$	5 アイン食品

(3) 第1回フットサル大会

準決勝

ルネス学園甲賀 16-3	水口クラブ	東レ滋賀 7-6	積水ハウス
--------------	-------	----------	-------

決勝

ルネス学園甲賀 12-0	東レ滋賀	この結果、ルネス学園甲賀は関西大会に出場
--------------	------	----------------------

(4) NISSAN CUP'96 第1回全日本フットサル選手権関西大会

予選リーグ

ルネス学園甲賀 6-6	久御山フットボールクラブ (京都)
ルネス学園甲賀 10-2	五條FC (奈良)

<決勝>

ルネス学園甲賀 8-5	ホーコク工業
ルネス学園甲賀サッカークラブは2月の全国大会に出場	



審判委員会活動について

審判委員長 三浦賢一郎

1級・1名、2級・16名、3級・30名、これは、96年2月現在に於ける滋賀県協会に登録されている審判員数です。この数値は、全国或いは関西と比較してもかなり低く残念ながら本県は、審判開発途上県と言えるでしょう。

3年前よりJリーグがスタートし、日本に於いてもサッカー競技がメジャーなものになってきました。しかしながら、ゲームの盛り上がりとともに審判のレベルが話題になることも多くなってきました。ゲーム印象の良否が技術・戦術とともにレフェリングに影響されることがあります。本県に於いても、Jサテライト、JFL、JLSL等日本サッカー協会主催ゲームが開催されるようになってきました。しかしながら、残念なことに主審は県外から派遣してもらっているのが現状です。

当委員会では、審判レベルの向上と併せ、次の1級審判員の育成を目標に取り組んでいます。以下に、審判資格について簡単に説明します。

4級：講習会受講で資格が取得でき、滋賀県協会主催ゲームの主審・線審ができます。
(16才以上・高校生も可)

3級：県協会の実技テストで取得でき、滋賀県協会主催ゲームの主審・関西協会主催ゲームの線審が可能になります。

2級：関西協会が行うルール・体力・実技テストで取得でき、関西協会主催ゲームの主審・日本協会主催ゲームの線審が可能になります。

1級：日本協会が行うルール・体力・実技テストで取得でき、日本協会主催ゲームの主審・線審が可能になります。

Jリーグ担当主審・線審：1級審判員の中から選抜。

国際主審・線審：1級審判員の中からFIFAが選抜（各国それぞれ最大9名）

尚、受験資格年齢制限が1級35才、FIFA40才である。

今後本格的に審判を志そうとすれば、少なくとも25才から活動をスタートし、27才で2級取得、30才で1級取得を目標に頑張ってください。2級取得頃までは、選手との兼任も可能ですが、以後はある程度選手生活に見切りをつける必要があると思います。審判委員会は、原則として第2土曜日18：30より草津勤労福祉センターで定例会議を開いています。主な内容は、ゲームの審判割り当て、講習会・研修会計画、2・3級候補育成計画、ルール事例研究（フリーディスカッション）、その他。高い技術・戦術を持つ選手がそれを表現できるゲームコントロールを目標に活動しています。興味の有る方は誰でも参加可能です。

4月はフットサル審判講習会も予定しています。

国際審判員・一級審判員の活動を終えて

緊急課題はフェアプレーの徹底

森津 陽太郎

16年間、国体をはじめ、国内のサッカー大会やJリーグの審判として、主に土曜日、日曜日を中心に審判をしてきました。また、1991年から1994年の4年間は国際審判員としても活動させていただき、海外でもサッカーの審判をするという機会をもつことができました。その間、たくさんの人たちとの出会いや、貴重な経験をさせていただきました。そのような経験から、今回は、日本のみならず、全世界で問題となっているフェアプレーということについて考えを述べたいと思います。

「勝利至上主義」という言葉で代表される考え方に、勝つためには何をしてもよい、ルールを破るのはもちろんのこと、時には相手を傷つけても仕方がないという考え方です。この考え方はフェアプレーの精神から全く反したものです。

Jリーグの試合でよく見る光景に、相手選手がけがをすると、ボールをわざと外に蹴りだし相手選手が治療をできるようにする。そのお礼に、相手チームは再会のためのスローインを投げ返すというプレーです。観客席からも拍手が沸き、審判をしていてもすがすがしいものです。しかしながら、その相手選手がけがをした原因が大変きたくないプレーだったということがあります。そんなプレーをしておいて相手に治療の時間を与えるためにボールを蹴りだすなんて本末転倒もいいところです。本当のフェアプレーというのは、相手を傷つけるというプレーを絶対にしてはならないのです。

もうひとつ気になることで、フェイントが多いということです。本当は引っ掛けられてもいないのに引っ掛けられたように倒れる。勝っているチームが痛くもないのに長いこと寝そべり時間を稼ぐなどです。

Jリーグはプロ野球と比較できるプロスポーツとして定着しつつあります。また、サッカーが世界NO.1のスポーツであり続けるためにもこの「フェアプレー」が徹底されなければなりません。サッカーというスポーツの魅力はフェアプレーの中でこそ見えてくるものなのです。

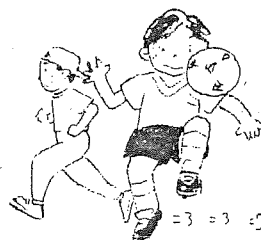
審判はそのために重要な役割を果たさなければなりません。と思っています。



5種 女子

(1) 第16回滋賀県女子サッカー選手権大会

〈少女の部〉	大津	5	—	4	真野
〈レディースの部〉	大津	3	—	0	ルネス学園
〈ママの部〉	油日	3	—	1	貴生川



(2) 第12回関西少女サッカー大会

予選リーグ(各組1位が決勝トーナメントへ進出)

大津	2勝1分	1位	堅田	1勝1分	2位	真野	2勝	1位
----	------	----	----	------	----	----	----	----

決勝トーナメント

準々決勝	大津	0	—	0	多井畑	真野	0	—	2	横尾
		3	PK	2						

準決勝	大津	1	—	1
		5	PK	4

決勝	大津	0	—	1	(大津は準優勝)
----	----	---	---	---	----------

(3) 滋賀県女子選抜チームについて

〈小学生の部〉

関西女子選抜チーム交流大会(2月)に向けて以下のメンバーを選び、週1回の合同練習をしています。来年度は4-5月に選抜します。

成田 麻希	上田 早紀子	大釜 友美	上坂 美由紀
松下 桃子(以上)	仰木)		

木村 典子	門杉 友美	小林 桃里	佐々木 美里
寺西 香菜(以上)	真野)		

福田 あすか	丸山 恵佳	竹下 純子	浜本 美里
伏木 美土里	八木 亜里紗	猪飼 なお子(以上)	大津)

〈レディースの部〉

平成9年度大阪国体からの正式競技採用に伴う強化の一貫としてレディース(中学生-大学生・社会人)の合同練習をしています。3月20日(甲西町)で来年度のセレクションと練習を行いますので、今年度の登録・未登録にかかわらずどんどん参加してください。

第1回 滋賀県女子サッカーフェスティバルについて

3月9・10日 甲西町のサンビレッジを会場に、県内女子サッカー愛好者が大集合します。Lリーグから講師も招きます。

報告

ブラジル友好交流使節団に参加して

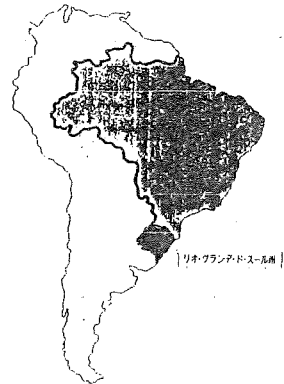
伴野 敬一（水口高校）、前田 康一（守山高校）、有本 豊（富士見スポーツ少年団）、山崎 智之（ユースFC）の4名は滋賀県サッカー協会の代表で、県が友好提携をしているブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州への友好交流使節団の一員として、昨年の12月1日から12日までサンパウロ市、ポルトアレグレ市（リオ・グランデ・ド・スール州の州都）、リオネジャネイロ市などを訪問しました。

友好使節団の目的地であるポルトアレグレ市にはプロサッカーのチームとして有名な“グレミオ”と“インテルナシオナル”があり、ブラジルの中においてもサッカーが盛んなところの1つです。我々はここに4日間滞在し、サッカー関係者と交流をしたり、いろいろな施設の見学をしました。

主な内容は、リオ・グランデ・ド・スール・カトリック大学のスポーツセンターの見学とその施設を利用して開かれているサッカースクールの見学、州教育局の訪問と州立スポーツセンターの見学およびそこで開かれているサッカースクールの見学、連邦大学体育学部において大学の先生との懇談およびそのサッカースクールの見学などです。

次に、プロチーム関連ですが、“グレミオ”はトヨタカップに出場したためチームとはあまり交流ができず、施設見学が中心でした。一方、“インテルナシオナル”では1日かけて、ジュニアからプロ選手までの練習や合宿所を含めた施設の見学をゆっくりとしました。特に、日本にも来ていた“エスピノーザ”コーチの指導によるプロ選手の練習は見応えがありました。他には、サンパウロ市で13万人収容のサッカースタジアムの見学などをしました。

日程の関係でプロ選手の試合が見られなかったことやまとまった形での指導法の研修ができなかったことは心残りですが、サッカーゴールのあるグラウンドがいたるところに見られたり、プロチームのユニフォーム着た人が街に多くいたりして、ブラジルサッカーのすごさに少しは触れられたような感じがする有意義な旅でした。（文責 前田）



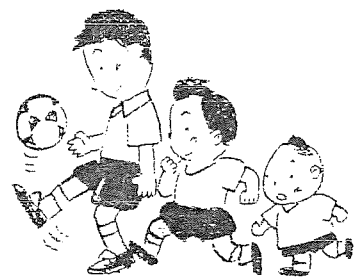
お知らせ

第2号において、募集をしていました広報誌のタイトルが決まりました。応募総数17通の中から広報委員会において審査した結果、

中西 啓介さん（大津市大江）の

SOCCER NEWS SHIGA

に決まりました。中西さんには賞品をお送りすると共に、今回の第3号からこの名称を使用させていただきました。多くの応募をいただきありがとうございました。



編集後記

年末の忙しさと大雪のため発刊が遅れておりました第3号を、新年を迎えようやく出すことができました。広報誌のタイトルも無事決まり、今後は紙面の充実をさらにはかりたいと考えています。広報誌の内容だけではなく、滋賀県サッカー協会に対してもご意見、ご要望がありましたら、県協会事務局までご連絡ください。

追伸、県協会の事務所が開設できそうです。詳細は次号でお知らせします。

（サッカー小僧）

お詫び 第2号の7頁に掲載しました、関西トレセン（U-15）のメンバーにFW 梅本 真吾（土山中2）が抜けていました。訂正しお詫び致します。